

研修だより

矢島小学校

7

04.7.5

授業の改善を通して学校をつくる

- 天笠茂（千葉大学教授）講演より -

学力向上フロンティアスクール公開授業研究会が、子吉小で開かれました。天笠氏の講演は、本校の研究にとって大いに参考になるものでした。以下に紹介します。

良い授業の視点

- 1 今何をやっているかが見える。（教師がねらいをしっかりと持っているかどうか）
- 2 授業の問題提起は何か（今日の場合、コース設定にそれが反映されたか）
- 3 子供の動き（学習形態がどれほど浸透しているか）

研究授業が普通の授業と決定的に違う点は、「問題提起をする」ということです。言い換えれば、「授業の主張点は何か」ということです。

学力向上フロンティアスクール 一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実

- 1 学力の評価を生かした指導の充実
- 2 発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材開発
- 3 個に応じる指導のための指導方法・指導体制

天笠氏は、「育てたい力」に応じて指導方法・指導体制を工夫することを強調されました。「どんな力をつけるときに、その指導体制が効果的なのか」を考慮して実践しなさいということです。学校の研究全体のチェックポイントとして、次の点が挙げられました。

学力の定義が明確か
評価を意識した指導案になっているか
教材開発は進んでいるか
指導体制はどうか

指導体制の工夫を促す TT と少人数指導による学習形態の工夫

- 1 指導体制の工夫を促す ～ チームによる教育をはかる ～
- 2 習熟度による学習についての理解を保護者・学習者にも広げる
- 3 各コース・グループで用いる指導法及び学習材の開発

講演の中で何度も強調されたのは、「教材開発」です。それぞれのコースや個に応じた教材を開発し、実践することが求められています。